

経年変化分析調査及び保護者に対する調査（抽出方式）

調査の目的

【経年変化分析調査】

全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる（平成25、28年、令和3年度に続き4回目）。

【保護者に対する調査】

家庭状況と学力等の関係について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる（平成25、29年、令和3年度に続き4回目）。

経年変化分析調査は、同一問題による経年比較により、全国的な学力の推移を把握するための重要な調査であり、調査結果に基づき専門家による詳細な分析を行い、国の教育施策の検証・改善に活用いたします。

保護者に対する調査も、家庭状況と学力等の関係を明らかにし、支援を必要とする児童生徒や学校に対する教育施策の検討に活用いたします。

調査対象校におかれましては、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

調査実施日

令和6年5月13日（月）～6月28日（金）の期間中、対象学校が実施可能な日時（保護者に対する調査は、上記期間に学校を通じて実施）

調査対象

【経年変化分析調査】

統計的な手法に基づき厳格な抽出を行った結果選ばれた国・公・私立の小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒（全国でPBT実施校※1、CBT実施校※2それぞれ、小学校600校程度、中学校750校程度）

※1 PBT実施校：冊子を用いた筆記形式で調査を実施する学校

※2 CBT実施校：児童生徒が活用するICT端末を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式で調査を実施する学校

【保護者に対する調査】

本体調査及び経年変化分析調査を実施した児童生徒の保護者

調査内容

【経年変化分析調査】

国語、算数・数学、英語（中学校） 調査時間：小学校 40 分、中学校 45 分※

※英語は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を45分で実施し、別途「話すこと」を5～10分程度で調査

※対象学校は、いずれか1教科を実施いたします。

※調査問題は非公開のため、調査実施後は問題も回収いたします。

※個人票の返却はありません。

【保護者に対する調査】

※保護者を対象に、児童生徒の家庭における状況、保護者の教育に関する考え方等に関する質問調査を実施いたします。

※回答は匿名化された上で回収・集計されるため、文部科学省及び委託事業者が回答者を特定することはできません。

また、回答内容について文部科学省や委託事業者から問い合わせることはありません。

※調査対象校には、保護者への実施の連絡、調査票等の配布・回収にご協力いただきます。

結果公表

全国の状況を分析した結果を公表いたします。

※過去の経年変化分析調査及び保護者に関する調査結果は、文部科学省及び国立教育政策研究所HPをご参照ください。

全国学力・学習状況調査

検索

文部科学省 HP

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/

国立教育政策研究所 HP

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



令和6年度

全国学力・学習状況調査

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

本体調査

調査実施日：令和6年4月18日（木）

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校（児童質問調査は、各学校の状況に応じて、調査時間を設定して実施。）

1 時限目	2 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	児童質問調査 (20分程度)※

◎中学校（生徒質問調査は、各学校の状況に応じて、調査時間を設定して実施。）

1 時限目	2 時限目	
国語 (50 分)	数学 (50 分)	生徒質問調査 (20分程度)※

※ 児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施。ネットワーク環境を考慮して日程分散を行う関係上、必ずしも教科調査と同じ日にならないこともある。

問題例：令和5年度全国学力・学習状況調査より

全問題については、国立教育政策研究所HPをご参照ください。

小学校・国語

複数の本や資料を読み、自分の考えをまとめる（運動と食事）

【資料3】 相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主に**エネルギーのもと**になります。肉や卵などは、主に**体をつくるもと**になります。**筋肉がついたり**、けがが治りやすくなります。野菜や果物などは、主に**体の調子を整えるもと**になり、病気に**かかりにくく**なります。

（栄養素の主な働きと食品の例）

主にエネルギーのもとになる

主に体をつくるもとになる

主に体の調子を整えるもとになる

米、パン、バターなど

肉、卵、牛乳など

野菜、果物など

三 相田さんは、食事の面から健康について考えている友達の話を聞いて、「資料3」に興味をもちました。次は、相田さんが、四角や丸で囲んだり線をつないだりして整理しています。「資料3」です。相田さんは、何をどのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

●出題の趣旨

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

●正答

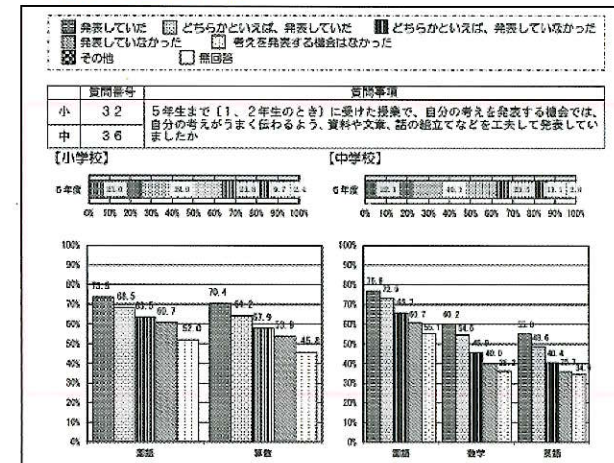
4

調査結果等の集計・分析・提供

集計・分析

- ◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表
- ◇児童生徒の学習環境や生活習慣、学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の相関関係を分析、公表

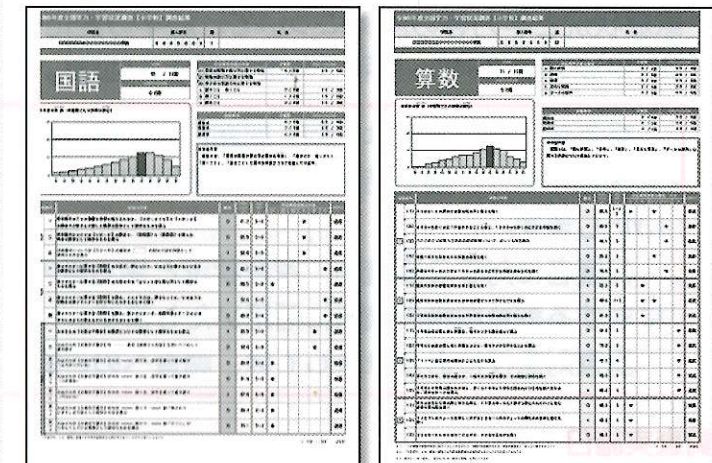
▼公表する調査結果の例



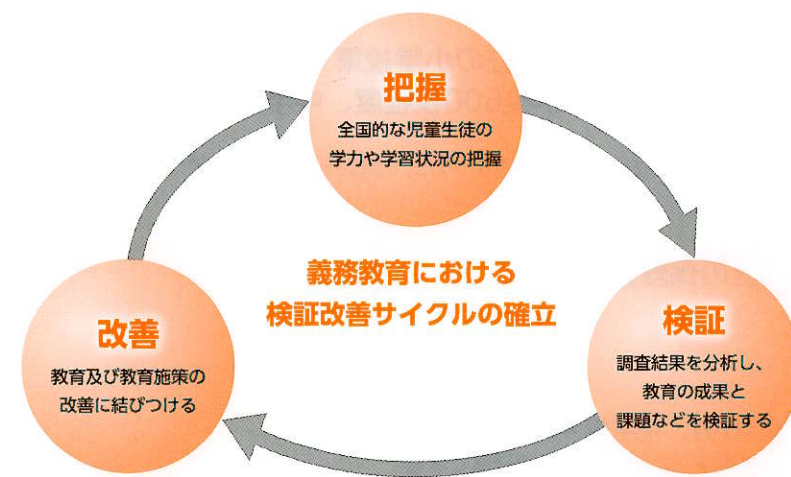
提供

- ◇各教育委員会、学校に以下の調査結果を提供
 - ・児童生徒の正答数分布図
 - ・設問別正答率・無解答率、類型別解答状況
 - ・質問調査の結果
 - ・各児童生徒に提供する「個人票」 など

▼「個人票」のイメージ



調査結果の活用



◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるよう作成したもの。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに、調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるよう作成したもの。各問題について、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

■授業アイデア例

各学校において、今後の学習指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会、学校等の教育活動や、教育施策の一層の改善を図るため、大学等の研究機関の専門的な知見を活用し、高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

（分析例）

- ・家庭の社会経済的背景と学力に関する調査研究
- ・良好な結果を示した教育委員会・学校における教育施策・学習指導等の特徴に関する調査研究

中学校・数学

データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること（黄葉日）

7 イチョウの木は、大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

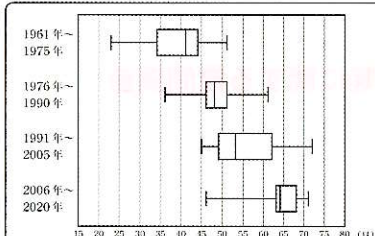
二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。そして、二人は次のような表にまとめました。

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
...	...	...
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きく変わったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

黄葉日までの経過日数の分布



	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

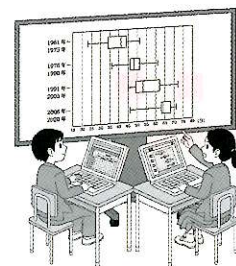
（2）二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうですね。」

啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」

一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。



●出題の趣旨

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

●正答例

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。